

経営説明会資料

2020年5月15日

日本製紙株式会社



木とともに未来を拓く

セグメント別営業利益

(単位：億円)

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績
紙・板紙	▲63	▲81	65
生活関連	120	116	126
エネルギー	41	79	68
木材・建材・ 土木建設関連	45	49	59
その他	33	33	32
合計	176	196	350

第6次中期経営計画 2019年度目標に対する進捗

(目標を上回る達成◎、達成○、未達△)

紙・板紙 (国内)

○ 製品価格の値上げと維持を実現し、生産体制再編成は計画通り抄紙機の停機を完了。原価改善以外は想定どおり進捗。

紙・板紙 (海外)

△ オーストラリアンペーパーは輸出環境の悪化、十條サーマルは安価品の流入などにより、それぞれ苦戦。

パッケージ (国内)

◎ 充填機販売が順調に進捗。

パッケージ (海外)

△ 米中貿易摩擦に伴う中国向け販売数量減少、設備トラブルによる生産数量減などにより苦戦。

家庭紙・ヘルスケア

◎ クレシア春日第1抄紙機稼働による販売数量増加を実現するとともに、家庭用品の製品価格の値上げ実現

ケミカル

△ 溶解パルプ (DP) の販売苦戦と、リチウムイオン電池向けCMCの販売伸び悩みにより未達。機能性フィルムは順調。

エネルギー

○ 石巻エネルギーセンターの操業は概ね順調。

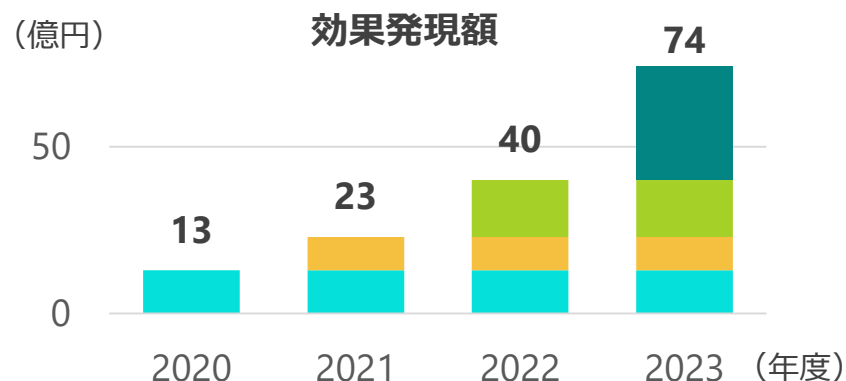
木材・建材・
土木建設関連

◎ 国内は新規住宅着工戸数減少の影響はあるが、燃料用チップの販売が堅調に推移。海外はAMCELの欧州向け販売が堅調。

主要な設備投資

2020年度以降、順次効果発現を見込む

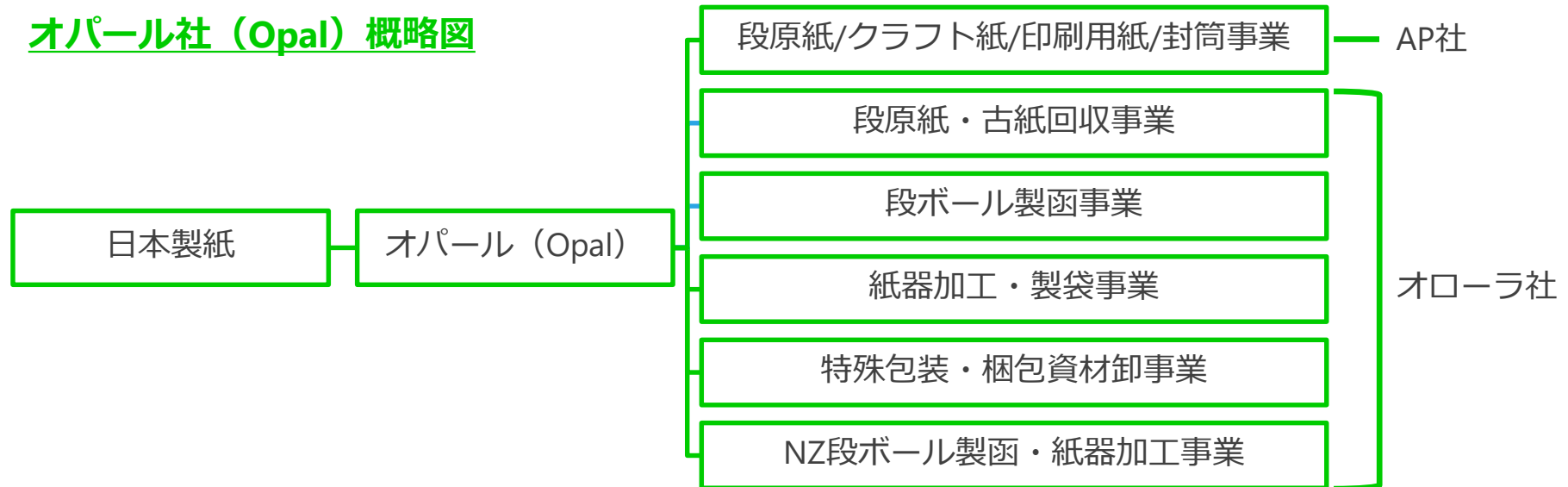
	投資内容	投資額	完工時期
パッケージ	NDP収益力強化工事（ドライパルプマシン設置ほか）	144億円	2020年度
家庭紙 ヘルスケア	ヘルスケア加工機増設（京都工場）	20億円	完工済
	不織布製造設備設置（富士）	46億円	完工済
	クレシア春日第二抄紙機（富士）	80億円	2020年度
ケミカル	スーパークロン増産①（岩国工場）	17億円	完工済
	スーパークロン増産②（岩国工場）	24億円	2021年度
	CMC生産設備更新工事（江津工場）	47億円	2020年度
エネルギー	勇払バイオマス専焼発電事業	341億円	2022年度



オーストラリアンペーパー（AP）との一貫体制を構築

一貫パッケージ事業体として傘下にさまざまなビジネスユニットを保有

オパール社（Opal）概略図



段原紙製造設備（ボタニー工場）



段ボール加工工場

感染拡大への対応

- ・ 新型コロナウイルス対策本部を設置
- ・ 本社・支社は、出勤者を極力抑制し、可能な限り在宅勤務へシフト
- ・ 生産拠点は、3つの密の回避を徹底するなどの対策を講じ、操業を継続
- ・ 機動的な資金調達による手元流動性の確保

収束後に想定される世の中の動き

働き方を含めた社会の変容や環境意識の変化

情報伝達

- ・ 紙からITへのさらなるシフト

包装

- ・ 通販や宅配の増加などにより包装資材の軽量化やバリア性向上に対する期待の高まり

衛生

- ・ 衛生意識の高まりによる衛生用紙の役割増



需要の変化を見極め、当社グループの持つ製品・ノウハウの最大活用に取り組む

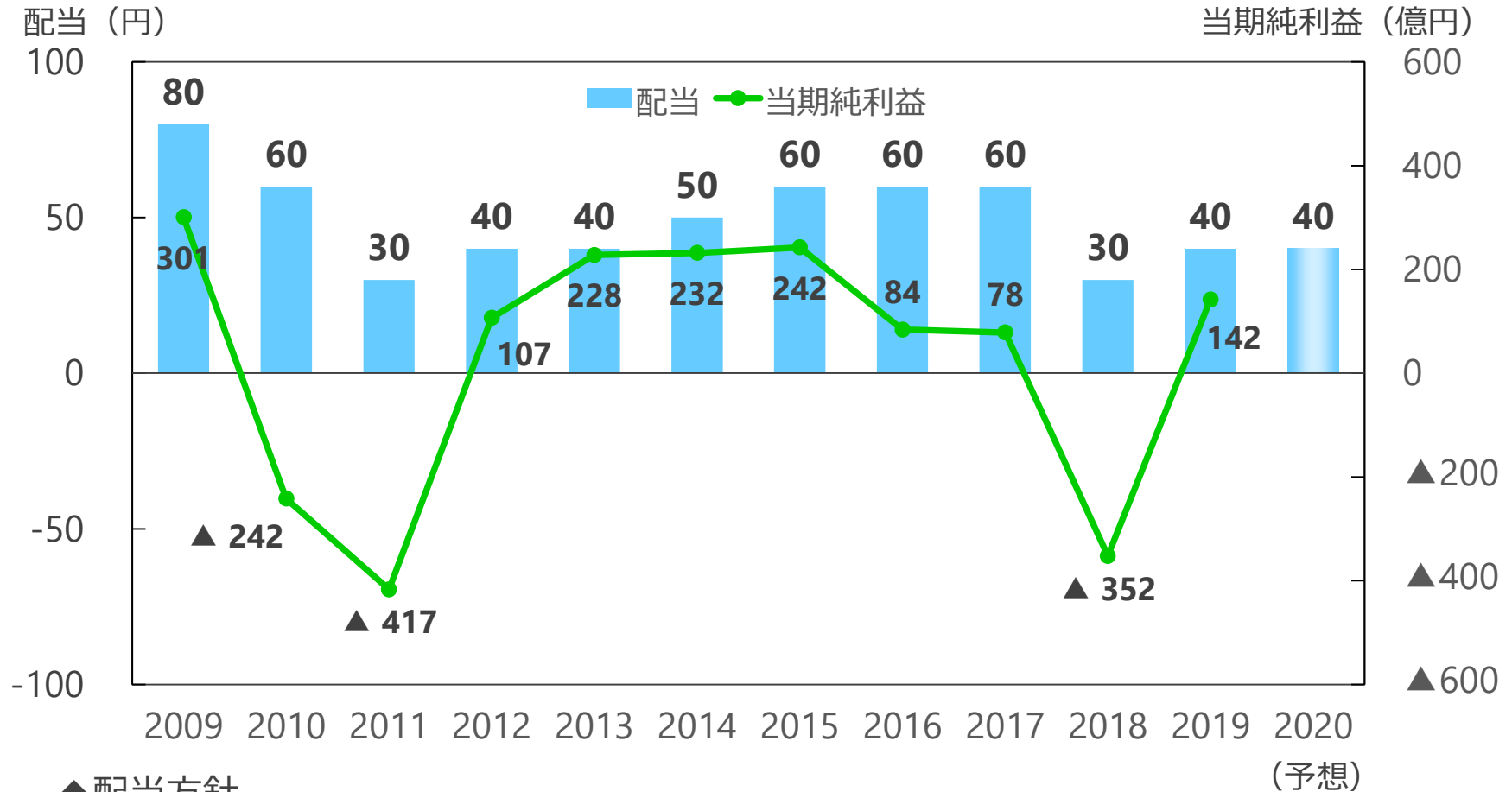
参考資料

日本製紙株式会社



木とともに未来を拓く

配当方針

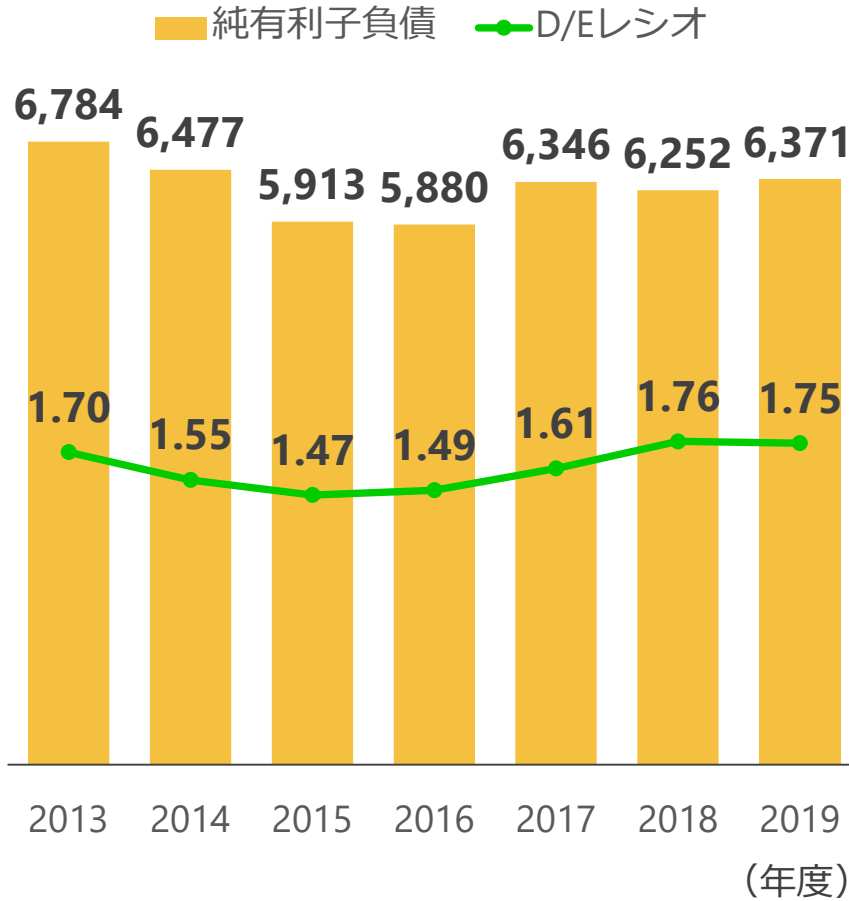


◆配当方針

グループとしての経営の健全性、将来にわたる株主価値の向上を視野に入れ、業績の状況や内部留保の充実等を総合的に勘案した上で、安定した配当を継続して実施することを基本方針としています。

純有利子負債

(単位：億円)



EBITDA

(単位：億円)



*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 受取利息 + 受取配当金 + のれん償却

日本製紙グループは世界の人々の 豊かな暮らしと文化の発展に貢献します

<注意事項>

当資料に記載されている見通しに関する内容については、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

日本製紙株式会社